

ケアセンターけやき

症例概要 利用者氏名：A様（60代 男性 要介護1）

利用期間：平成28年4月～現在

通所リハビリテーション

経過：平成26年ころから動作緩慢、小刻み歩行、仮面様顔ぼうなどがみとめていた。平成27年10月に近隣病院受診しパーキンソン症候群の診断を受ける。下肢機能の低下があり、進行を防ぐことを目的に平成28年4月から通所リハビリテーションの利用開始となる

内 容

A様は、パーキンソン症候群の影響から、円背が進み、姿勢を保つことができず、また、薬の影響もあり覚醒の悪い状態が続いていました。リハビリ中も覚醒の悪い時が多く、エルゴメーターの使用中に覚醒が悪くなり転落しそうになったこともありました。リハビリは、姿勢を保つための体幹トレーニングと歩行安定のための下肢筋力トレーニングを中心に行ってきました。

ある日の送迎車両の中で、A様から、「これを聞きたい」とCDを頂きました。他ご利用者に確認し、車内で聞いたところ、A様がギターを演奏しているバンドの楽曲で、あまりの上手さに送迎スタッフ、同乗していたご利用者は感動しました。しかし、A様は、「ギターを弾くのが好きで、ずっと弾いていたけど今は弾けなくなった。」と残念そうな表情で話していました。

その出来事をリハビリ・介護スタッフ間で共有し、担当リハビリスタッフから「もう一度ギターを弾きませんか？」と提案しました。当初は、「病気もあって指が思うように動かないから、もう上手く弾けない。」と消極的でしたが、リハビリを継続し、その効果が現れ始めると、A様より、「ギターが弾きたい。」との希望が聞かれました。A様の希望を聞いて、リハビリでは、姿勢を保持するための体幹トレーニングとクッションを使用している姿勢保持を行い、介護スタッフと一緒に実際のギターを使って、A様の好きなベンチャーズ「パイプライン」練習を開始しました。A様は好きなギターの話をしている時や、弾いているときは覚醒状態がよくリハビリも意欲的に取り組んできました。利用開始当初は、週2回の利用でしたが、週3回に増回してリハビリに組み込むことができました。リハビリが進むにつれて、少しずつギターを弾けるようになり、目標としていた、「パイプライン」を弾けるまでになりました。1曲弾けると次の曲を弾けるようになりたいと希望され、同じベンチャーズの「ウォークドントラン」、「ワイプアウト」という曲を練習されています。「3曲弾けるようになったら、また皆の前で演奏したい」と次の目標に向かってリハビリにと取り組んでおります。